

平成24年度

事業計画書

平成24年8月1日から
平成25年3月31日まで

平成24年10月18日

公益財団法人日本宇宙少年団

目 次

はじめに	P 2
I 公益目的事業	P 3
1 宇宙子どもプラットフォーム事業	P 3
(1) 宇宙飛行士参加プログラム	P 3
① 星出宇宙飛行士とのリアルタイム交信イベント	P 3
② ハローアストロノーツ	P 4
(2) 国際交流	P 5
① 日本の衛星観測データを利用した宇宙教育プログラムの紹介	P 5
(3) 特別プログラム	P 5
① 名古屋市科学館開館50周年記念事業	P 5
2 スペースキャンプ事業	P 6
(1) 種子島スペースキャンプ	P 6
(2) 宇宙体験キャンプ～南三陸町の子ども達を種子島宇宙センターへ	P 6
(3) 銀河教室 in つくばキャンプ	P 7
(4) ケネディスペースキャンプ	P 7
3 宇宙子どもワークショップ2012事業	P 8
(1) 日本水ロケットコンテスト2012	P 8
(2) その他ワークショップ	P 9
4 衛星データ利用事業	P 9
(1) 第2回衛星データ利用コンテスト	P 10
5 団体との連携事業	P 10
(1) 連携団体の活性化支援	P 10
(2) 連携団体長会議	P 10
6 情報発信事業	P 11
(1) 宇宙教育テレビ	P 11
(2) 宇宙情報誌の発行・編集協力等	P 11
(3) ホームページ	P 12
(4) Web の利用	P 12
7 教材事業	P 12
(1) 教材の送付	P 12
8 講師派遣事業	P 12
(1) 玉川高島屋「宇宙展」	P 12
II 運 営	
1 会 員	P 13
2 業務執行体制	P 13
3 寄附金税制、活用の推進	P 13
4 YAC パンフレット、入団案内	P 13

はじめに

公益財団法人日本宇宙少年団は、昭和61年（1986年）に財団法人日本宇宙少年団として発足して以来、本年で26年を迎えました。公益法人制度改革（平成20年12月に施行）に伴って、本年8月1日より正式に公益財団法人日本宇宙少年団として再出発をすることになりました。

公益財団法人日本宇宙少年団（YAC）の最初の事業計画書は、従って、8月1日の登記の日から来年3月末までの事業の計画を示すものとなっています。今期においては、来年度に向けてYACの事業を推進するための基盤を確立しておくことが緊急の問題となっています。できれば、今年度末までには、今年度は勿論、来年度の寄付金、賛助金についての見通しを立てたうえで、来年度以降の体制を決めておきたいと思っています。

また、これまでと同様、YACの会員（団員、分団）に対する支援、サービスを徹底し、向上を図ることが将来のYACの発展につながるものと思っています。これ等のことを実現する方策について、今年度中に検討するとともに、これまでの方法を徹底的に見直し、来年度中には方策を実行できるようにすることが当面の課題であると思っています。会員に対して魅力的なYACとなるように心がければ、会員の増加につながることになり、YACの見通しも明るいものになると信じております。最初は小さな体制でもって業務を始め、会員の増加に伴って順じ拡大していくとの考えで業務を進めることにしたいと思っています。

財団法人日本宇宙少年団の活動に対して、これまで長年にわたり惜しみない協力を頂いた個人ならびに団体の皆様へ心から感謝いたします。また、新しい法人となって始める活動への協力についてもこれまで以上をお願いすることを切に希望する次第です。

（基本方針）

公益財団法人日本宇宙少年団として再出発するにあたり、今期活動に当たっての基本方針を以下に表します。

自然環境の保護や生命の保全など、様々な問題が人類にとって緊急な課題となっており、YACの活動を通じて次世代を担う青少年及びその家族に、これらの課題について考える重要性を伝えることを目的として、

- 青少年の宇宙への夢を育む人材育成の推進として、全国のYAC連携団体を拠点として、地域・地区の宇宙教育活動を支援する。
- 青少年の資質の向上を図るため、YAC活動の内容を高め、社会からの高い評価を維持する。
- YACの活動を継続的に促進するために、これまでのノウハウを集結し、業務の効率化を図り、効率的に活動が行なえるように経営資源の向上を目指すとともに、自主事業への賛助金等の拡大によって、財政基盤の確立を図り、経営の安定化を目指す。

I 公益目的事業

1 宇宙こどもプラットフォーム事業

「宇宙こどもプラットフォーム」は、「子どもや保護者が一緒に交流できる場」という意味をもち、宇宙に携わる様々な現場のプロフェッショナルたちが子どもとその保護者を含めて交流、対話し、彼らの仕事への情熱、科学の面白さを子どもたちに伝えるものです。また、保護者は子供たちの興味、関心を理解し、応援してあげられるように保護者と子どものコミュニケーションの機会を提供することで、次世代の育成に貢献する事業です。

本事業は、日本宇宙少年団の地域・全国規模での一般参加型活動として、全国の子供たちに参加の機会を与えられるように工夫すると同時に、従来の分団活動との相互交流・活性化を図ることで、日本宇宙少年団が展開する「ホンモノ体験」の一環として地域社会への貢献を目指すものです。

本事業は、次の3つのプログラムにより構成されます。

- (1) 宇宙飛行士参加プログラム
- (2) 国際交流
- (3) 特別プログラム

(1) 宇宙飛行士参加プログラム

人類の夢・期待を背負って活動する宇宙飛行士の姿は、子どもたちの心に火をつけるほどのインパクトがあります。このことから、将来子ども達のチャレンジする夢や希望、勇気を育む人材育成を目的として以下2つの事業を行います。

① 星出宇宙飛行士とのリアルタイム交信イベント

【目的】

日本が開発した実験棟「きぼう」に着目して、宇宙で人間が暮らすために、どのような工夫が施されているかを子どもは最初に学習します。そして、「きぼう」にある様々な装置から、私たちの生活に関連するテーマを設定して、子どもたちが質問を考えるためのヒントとします。さらに東京、大阪、広島の3つのプラネタリウムを接続し、宇宙開発に関連した数々の研究から得られた知見、成果を学ぶことで、宇宙開発が私たちの生活にどのように役立っていくのかを子どもたちに伝えながら、子ども達の思考力を引き出し、科学的な見方や考え方を深めてもらうことを目的とします。

【実施内容】

国際宇宙ステーション（ISS）に長期滞在している星出宇宙飛行士と地上とで直接交信するイベントを、星出宇宙飛行士が所属する JAXA へ企画提案し、審議を受けた結果、採択されて実施が7月に決まりました。（公財）日本宇宙少年団は、全国の子供たちに参加を呼びかけると同時に、あらかじめ星出宇宙飛行士が行うミッションを学習させ、宇宙での食育にかかわる星出宇宙飛行士への質問を募集します。本イベントに参加した子ども達は、直接宇宙飛行士との対話をきっかけに、宇宙飛行士を志す夢や希望を育み、将来の夢へ向かって

チャレンジし続ける気持ちを持つ事の大切さを学びます。

【タイトル】 コニカミノルタ presents 「天空未来教室」

【時 期】 平成24年8月9日（木）

【場 所】 東京（コニカミノルタ天空プラネタリウム）
大阪（ソフィア堺プラネタリウム）
広島（広島市こども文化科学館）

【参加人数】 東京：200人、堺：100人、広島：300人

【参加費】 無料

【主 催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【共 催】 コニカミノルタプラネタリウム(株)、堺市教育委員会、（財）広島市未来都市創造財団

【特別協賛】 コニカミノルタホールディングス(株)

【協 力】 JAXA、大阪府立大学、日本サブウェイ(株)

② ハローアストロノーツ

【目 的】

宇宙飛行士と交信し対話するだけでなく、参加する子ども達に対して、宇宙飛行士の訓練内容や宇宙での生活等を学ぶ講座を事前に行い、宇宙及び科学についての知識を高め、興味や関心を深く掘り下げて宇宙の不思議を考える機会を提供します。地方など宇宙飛行士との交流の機会が少ない子どもたちへの活動として、大変有効な教育プログラムであると考え、少人数の参加者となっても地方都市での実施を優先しています。

【実施内容】

米国ヒューストンと日本国内の開催地をテレビ会議システムで結び、ヒューストンにいる日本人宇宙飛行士と子どもたちが直接交流をする活動を宇宙飛行士が所属する JAXA 協力の下、宇宙に関わるホンモノと出会う機会が少ない地方の子どもたちへ夢を育む宇宙教育プログラムとして2007年から実施しており、平成24年度下期計画では以下の2箇所で行います。

- (i) 福井県小浜市
- (ii) 名古屋市科学館

(i) 福井県小浜市

【タイトル】 ハローアストロノーツ in 小浜

【時 期】 平成24年8月26日（日）

【場 所】 福井県小浜市、サン・サンホーム小浜

【参加人数】 30名

【参加費】 無料

【主 催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【共 催】 日本宇宙少年団若狭分団

【協 力】 JAXA、小浜市教育委員会

(ii) 名古屋市科学館

【タイトル】 ハローアストロノーツ

※名古屋市科学館開館50周年記念事業プログラムの一部

- 【時 期】平成24年11月24日（土）
【場 所】名古屋市科学館
【参加人数】中学生・高校生300人
【参加費】無料
【主 催】公益財団法人日本宇宙少年団、名古屋市科学館
【協 力】JAXA

（2）国際交流

① 日本の衛星観測データを利用した宇宙教育プログラムの紹介

【目 的】

人工衛星に係る潜在的なユーザーや利用形態の開拓等、宇宙利用の裾野の拡大を行う目的の一環として文部科学省からの委託を受けたプログラムで、地球観測衛星による観測データを子どもたちが能動的に利用する教育方法を構築し、国内での実証を行ってきた。国内での実証の経験を踏まえ、この教育方法を幅広く利用してもらうために、海外でのこども教育の啓蒙の一環として紹介する。

【実施内容】

第63回国際宇宙会議（International Astronautical Congress）において教育方法の構築と国内での実証結果についての紹介論文が採択されたことから、同会議の「子ども宇宙教育部門」での論文発表を行なうとともに、海外の宇宙ことも教育の現状を把握する。

【タイトル】日本における衛星観測データを利用した宇宙教育プログラム

【時 期】平成24年10月1日から7日

【場 所】イタリア・ナポリ

【派 遣】日本宇宙少年団おおいた分団 分団長 高橋 徹 氏

（3）特別プログラム

① 名古屋市科学館開館50周年記念事業

※プログラムの一部に「ハローアストロノーツ」を含む

【目 的】

ガガーリン少佐の人類宇宙飛行から50年、丁度、日本でも小型ロケットの実験が始められた頃である。なぜ人類は宇宙を目指すのかを振り返り未来へ挑戦し続ける宇宙開発の果たす役割を啓発することを目的とする。

【実施内容】

私たちの住む地球を「宇宙船地球号」を例に、かつて太平洋上の離れ小島であるイースター島での出来事から環境問題や宇宙船地球号の未来について国際文化研究センター安田先生の講演を行う。更に、日本における地球観測の先駆けである東海大学 坂田教授から、これまで実践されてきた「宇宙考古学」についての話を聞き、子どもたちに宇宙開発利用についての重要性を考えさせる。

【タイトル】地球環境プロジェクト～宇宙からのメッセージ

【時 期】平成24年11月24日（土）

【場 所】名古屋市科学館

- 【参加人数】中学生・高校生300人
【参加費】無料
【主催】公益財団法人日本宇宙少年団、名古屋市科学館
【協力】JAXA

2 スペースキャンプ事業

本事業は、全国の青少年に対し、『宇宙・自然・交流』をテーマとした人材育成プログラムを通して、「いのちの大切さ」を基本に、青少年に潜在する「好奇心」「冒険心」「匠の心」を育み、団体行動を通して友情・親睦を深めることを目指し、本年度は、次の4つの宿泊型キャンプを行います。

- (1) 種子島スペースキャンプ
- (2) 宇宙体験キャンプ～南三陸町の子ども達を種子島宇宙センターへ～
- (3) 銀河教室 in つくばキャンプ
- (4) ケネディスペースキャンプ

(1) 種子島スペースキャンプ

【目的】

水ロケットや天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、自然体験活動、野外学習を通して、仲間作りの方法や社会のルールを学び、生活体験や自然体験からの感動する心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【実施内容】

毎年子ども達の夏休みを利用し、宇宙・自然・交流をテーマとした宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習におけるプログラムを立案し、小学生・中学生を対象にスペースキャンプを行っています。プログラムの内容は、宇宙開発に関わる学習では、ロケット打上げ射場のある JAXA 種子島宇宙センター内の会議室を借りて宇宙及び科学に関する授業や工作を行い、自然体験活動では、種子島の歴史や自然に触れ、マングローブやウミガメ産卵の自然を通して環境問題を学習し、野外学習では、夜の天体観測を行い、美しい星空を見て楽しく星座や宇宙について学びます。

【時期】平成24年12月26日～29日（3泊4日）

【場所】種子島全域（南種子町自然の家、種子島宇宙センター他）

【参加人数】60名

【参加費】19,800円

【主催】公益財団法人日本宇宙少年団、JAXA

【共催】日本宇宙少年団鹿児島地方本部

【協力】南九州コカ・コーラボトリング(株)

【協賛】(株)南九州ファミリーマート

【後援】鹿児島県、南種子町、中種子町、西之表市、鹿児島県宇宙開発促進協議会

(2) 宇宙体験キャンプ～南三陸町の子ども達を種子島宇宙センターへ～

【目的】

早稲田内田和成ゼミ Save Japan Project（セーブジャパンプロジェクト）

(WSJP)、南三陸町教育委員会の協力のもと、南三陸町の小学校4年生～6年生をJAXA種子島宇宙センター、JAXA筑波宇宙センターへ招待し、最先端の科学技術と豊かな自然を体験することによって、これ等の子供たちにとって、将来への夢を育み、希望の力になることを目的とします。

【実施内容】

JAXA 筑波宇宙センターの見学を皮切りに、種子島に渡って観光協会の協力でウミガメの放流体験、マングローブでのカヤックツアーを経験する。また、地元の小学生との交流会や種子島宇宙センター等を見学する。

【時期】 平成24年8月18日～21日 (3泊4日)

【場所】 JAXA 種子島宇宙センター、JAXA 筑波宇宙センター

【参加者数】 南三陸町内小学校4年生～6年生 22名

【参加費】 無料

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】 早稲田内田和成ゼミ Save Japan Project(セーブジャパンプロジェクト)(WSJP)、JAXA、種子島観光協会

(3) 銀河教室 in つくばキャンプ

【目的】

ロボットアーム工作や天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、JAXA 筑波宇宙センターで行われている宇宙飛行士訓練模擬体験を通し、宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」や「場をなごませる力」を学び、仲間作りの方法や社会のルールを学び、心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【実施内容】

筑波宇宙センターの施設見学と講演を行い、宇宙ホンモノ体験として、閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練、宇宙ローバー操作模擬体験、を班ごとに分かれて行います。また、班ごとにこども座談会(テーマ:宇宙飛行士になって実現したいこと)を行い、最後に各班に与えられたミッションに対する報告会を実施します。

【時期】 平成24年8月22日～24日(2泊3日)

【場所】 JAXA 筑波宇宙センター

【参加人数】 40名

【参加費】 32,000円

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団、毎日新聞

【共催】 新日本製鐵(株)

【協力】 JAXA

(4) ケネディスペースキャンプ

【目的】

日本通運(株)東京旅行支店が企画するケネディ宇宙センター見学とスペースキャンプ体験プログラムに協力し、参加者によりNASAの宇宙開発を身近に体験してもらい、宇宙および科学技術の理解増進を目的とします。

【実施内容】

NASA ケネディー宇宙センターで開催される「スペースキャンプ」に参加し、ロケットや宇宙船にふれ、また、元 NASA 宇宙飛行士と交流する等、ホンモノ体験を行います。

- 【期 間】平成24年8月23日～29日（6泊7日）
- 【場 所】米国フロリダ州 NASA ケネディースペースセンタ
- 【参加人数】最少催行人数15名
- 【参加費】一般368,000円、団員363,000円
- 【主催】日本通運(株)東京旅行支店
- 【協力】公益財団法人日本宇宙少年団

3 宇宙子どもワークショップ2012事業

本事業は、全国の青少年に対し、宇宙及び科学の楽しさや不思議さに触れ、子ども達の夢や希望を育むことを目的とし、宇宙をテーマとした体験プログラムや水ロケットコンテスト等を全国各地で行うものです。

(1) 日本水ロケットコンテスト2012

【目的】

(公財)日本宇宙少年団が Web で公開している水ロケットのノウハウや競技ルールなどのマニュアルを参考に、子どもたちに水ロケットの飛ぶ仕組みを学習させ、遠くまで飛ばす工夫（飛距離競技）や目標地点に飛ばす工夫（定点競技）を競うことにより、子ども達の好奇心や理解を高め、空へ自分の考えたものを飛ばすことへの夢や挑戦、チームワーク力を養うことを目的とします。

【実施内容】

全国を11ブロックに分けたブロック大会を行い、成績優秀者には全国大会進出権が付与されます。全国大会では、成績優秀な個人を3位まで表彰する「個人表彰」と成績優秀なチームを表彰する「総合表彰」を授与し、Webに掲載します。

また、水ロケットコンテストの全国大会において、一定の基準をクリアした中学2年生～高校1年生の選手の中から、上位2名をAPRSAF-19（アジア太平洋地域宇宙機関会議）の水ロケットイベントの日本代表としてJAXAへ推薦します。

【大会名称】日本水ロケットコンテスト2012

※内容は、宇宙子どもワークショップ2012の一環で実施

- 【期 間】各地域予選会 平成24年6月～9月
ブロック大会 平成24年6月～8月
全国大会 平成24年9月15日～16日
- 【場 所】各地域予選会 各地域の科学館、大学、学校、その他
ブロック大会 〃
(ブロック割) ①北海道、②東北、③北関東、④南関東、⑤北信越、
⑥東海、⑦近畿、⑧中国、⑨四国、⑩九州、⑪沖縄
全国大会 銀河アリーナおよび隣接留保地、機体製作や交流会は
宿舎「若あゆ」
- 【参加対象】全国の小学4年生～高校3年生（大会参加者延べ1000名程度）

- 【参加人数】全国大会：こども33名、付添リーダー11名 計44名
 【参加費】無料 ※ただし、往復交通費は各自負担
 【主催】宇宙子どもワークショップ2012 実行委員会
 構成：（公財）YAC、JAXA、相模原市、KU-MA
 【後援】内閣府宇宙戦略室、文部科学省、経済産業省、全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本機械学会宇宙工学部門
 【協力】銀河連邦サガミハラ共和国、ANA 全日本空輸株式会社

（2）その他ワークショップ

- 【大会名称】宇宙こどもワークショップ2012
 ※内容は、日本水ロケットコンテスト2012、他ワークショップでプログラムを構成する

【目的】

全国の子どもたちが宇宙をテーマにした体験プログラムや工作教室等を通して、科学の楽しさや不思議さに触れ、青少年の宇宙に関する興味や関心を高めることを目的とします。

【実施内容】

- ① 宇宙芸術友禅染め
 友禅染の先生の指導を受けながら、友禅染を体験します。小惑星からのサンプルリターンに成功した小惑星探査機はやぶさをテーマにした作品づくりをします。
- ② モデルロケット製作・打上
 本物のロケットと同じ原理で飛行するモデルロケットを製作し打上げることで、ロケットが飛ぶ原理を知り、安定して飛行するための方法を学びます。
- ③ ハイブリッドロケット映像・展示等
 YACの高校生団員がおこなったハイブリッドロケットの製作と打上げの体験発表を行います。ハイブリッドロケットの実機の展示、燃焼試験の映像等を展示します。
- ④ 飛行機の疑似操縦体験
 フライトシュミレーターによる飛行機の疑似操縦体験をおこない、どの翼がどのような働きをすることで飛行機がコントロールされるか、体験を通じて参加者に考えてもらいます。
- ⑤ 基調講演
 「はやぶさ」を育んだ半世紀 - 糸川英夫生誕100年」（的川泰宣先生）日本水ロケットコンテスト2012の参加者及びその保護者を対象に、基調講演を実施します。

【実施期間】平成24年9月16日（日）

【場所】相模原市「銀河アリーナ」1F

4 衛星データ利用事業

全国の小中学生・高校生に、人工衛星のデータを利用し自ら課題を見つけ調査・分析に取り組む機会を提供します。そして、宇宙を身近に感じるとともに地

球・生命の大切さや宇宙開発の意義などを学習するプログラムを実施します。本事業に携わる子ども達は、衛星データを身近にし、自ら考える根っこを培い、そこから考えを発展させる翼を育てます。

(1) 第2回衛星データ利用コンテスト

【目的】

昨年につき、全国の小中学生・高校生を対象に、人工衛星のデータに興味をもち、衛星データを利用することによって様々な発見を見つけ出し、更に自ら課題を持って探究する力を養う事を目的とします。

【実施内容】

衛星データを分析した小中学生・高校生の発見からくる調査・分析をレポートに取りまとめ、応募の中から個人の部、グループの部に分けて表彰を行います。応募に際しては、以下の項目を記載してもらいます。

- ① かだい名
- ② みつけたこと
- ③ わかったこと
- ④ かんがえたこと
- ⑤ これからやってみたいこと
- ⑥ 使用した衛星がぞう（場所や番号など）
- ⑦ 協力し合ったところ※グループの部のみ
- ⑧ 分析するために使用したソフト名（指定ソフトのどれを使用した）、画像をどのように処理したか。

5 団体との連携事業

(1) 連携団体の活性化支援

【目的】

YAC分団などの連携団体の活動を活性化を通じて、青少年の育成に寄与することを目的としています。

【実施内容】

活動に関する情報発信、新規分団の結成支援、活動内容に関するアドバイス、新規活動の開発、その他日本宇宙少年団全体の活性化に繋がる施策を実施します。また、必要に応じて分団個別の課題を解決するための施策を実施します。

(2) 連携団体長会議

【目的】

認定を受けた連携団体が行うYAC活動を推進するため、連携団体の全体会議の場として連携団体長会議を設け、YAC活動等を活性化するための方策を検討し、活動組織相互の情報交換等を行います。

【実施内容】

- ① YAC活動の方策を検討し、地区組織単独では解決できない問題点等を協議し、情報の交換等を行います。
- ② 地方本部長、支部長及び分団長で構成しますが、各組織の長が出席でき

ないときは、所属する指導員に代理させることができます。

③ 会議の開催に先立ち、構成員の互選により議長及び副議長を選出します。

6 情報発信事業

(1) 宇宙教育テレビ

【目的】

宇宙教育テレビを通して、子ども達が宇宙に関する知識を学び、宇宙への興味や関心を引きつけ、宇宙を身近なものとして親しんでもらうことを目的とします。

【実施内容】

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、放送番組の内容を立案し、その情報をインターネット番組で放送・配信します。番組には宇宙及び科学技術の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に向けて、分かり易く紹介していきます。また、番組中に子ども達からの宇宙に関する不思議や質問を書き込み形式でもらい、その質問に対し、専門家が直接回答をすることで番組の一体感（交流）を深めます。

【タイトル】宇宙教育テレビ

【放送】月に2回実施（第2、第4木曜日）19時30分～20時30分
※ロケットの打上げなどがある月には、変更となる場合があります。

(2) 宇宙情報誌の発行・編集協力等

【目的】

青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進、そして本誌を利用した宇宙教育活動の推進を目的として宇宙情報誌、年鑑の発行・編集協力・配布等を行います。

① 宇宙情報誌

宇宙及び科学技術に関わる最新の情報や科学実験の紹介を子ども向けに紹介し、宇宙教育活動レポート、イベント情報等を掲載する情報誌の発行・編集協力を行います。

【冊子名】「宇宙（ソラ）のとびら」

【発行等】発行・編集協力：財団法人日本宇宙少年団

発行回数：年4回（6, 9, 12, 3月）

② 宇宙年鑑

宇宙年鑑トピックや宇宙及び科学に関する情報が掲載されており、宇宙や科学に関する知識の普及啓発の促進に役立つ専門誌として、「スペースガイド」の発行・編集協力を行います。

【冊子名】スペースガイド

【発行等】発行・編集協力：財団法人日本宇宙少年団

発行回数：年1回

宇宙情報誌の発行・編集協力等

(3) ホームページ

【目的】

青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進、そしてインターネットを利用した宇宙教育活動の推進を目的としてウェブページでの情報公開を行います。

① 公益財団法人日本宇宙少年団のウェブサイト

(<http://www.yac-j.or.jp>)

公益財団法人日本宇宙少年団の概要、沿革、団員募集、賛助会加入の企業・団体・個人など、業務・財務に関する資料、連絡先を掲載。

② 日本宇宙少年団団員活動コミュニティサイト (<http://www.yac-j.com>)

お知らせ、宇宙教育テレビ、メディアでの掲載記事、団員の活動予定、活動報告、活動ビデオ、イベント情報、教材研究を掲載。

③ スペース・キッズ・プラットフォームサイト (<http://www.yac-skip.jp>)

公益財団法人日本宇宙少年団が、企業、団体との連携により展開する事業の紹介。募集告知を掲載。

(4) Web の利用

【目的】

Web を利用して宇宙教育にかかわる様々な組織や団体との連携を潤滑にし、それぞれが研究・開発、作成した素材を相互活用できるようにします。

【実施内容】

宇宙教育の指導マニュアルや、活動教材を整備し Web サイトで公開します。その他、活動に役立つような情報、団員募集や催事参加の募集、そして旬な話題等、Web を通じて紹介します。

7 教材事業

(1) 教材の送付

【目的】

団員の家庭に直接教材を送付することで、特に分団に所属していない団員が家庭でも YAC 活動が体験でき、「冒険心」「好奇心」「匠の心」の育み、また、共通体験を経験してもらうことを目的としています。

【実施内容】

JAXA宇宙教育センターから青少年向け配布教材の提供を受け、団員に配布をする。JAXA宇宙教育センターの教材作成にあたっては、YACがアドバイスをするなどの協力をおこなう。

【期間】 9月、10月、11月、1月、3月 計5回

8 講師派遣事業

(1) 玉川高島屋「宇宙展」

【目的】

玉川高島屋で行われた「宇宙展」への企画協力をします。

【実施内容】

宇宙飛行士の宇宙での生活や、宇宙ステーション組立などに使用するロボットアームの話。宇宙飛行士コミュニケーション訓練に挑戦や、ロボットアーム体験を実施します。

【期 間】平成24年7月25日～8月19日

このうち、7月25日、8月7日、8月11日は、YACから講師を派遣

【場 所】玉川高島屋

【特 典】入場無料券を100名分用意、団員パスポートを受付で見せると100名まで入場無料

Ⅱ 運 営

1 会 員

地域、家庭に支えられながら団員が成長していくためにも、新しく家族会員についての考え方を検討しています。また、会員の意見を出来るだけ取り入れながら、支援の方法や新しいサービスを提案すべく検討も行っております。これらの検討結果については、理事会に諮りつつ今年末までに具体案を作成し、来年には実現に向けて着手できるようにしたいと考えています。

また、これまで多数の会員から希望があったブルースーツをYAC活動着として希望者に斡旋することを理事会に提案します。

2 業務執行体制

YACの活動を推進するとともに分団の活動を円滑に行えるようにするために、活動委員会を設置します。この活動委員会は、連携団体の意見を聴取した上で、活動方針、活動計画、活動の評価についての案を作成し、理事会に提案をします。

事務局の体制については、平成24度はこれまでと同様の体制として、業務を実施することにしています。

3 寄附金税制、活用の推進

特定公益増進法人としてのYACに対する寄付金については、特別な税制優遇取り扱いが可能となります。特定目的の寄附金などを募ることによって、効果的な活動が実施できるようにしたいと考えています。また、これらの寄付金については、会員等への支援とする活動に対して活用します。

4 YACパンフレット、入団案内

YACに対する寄付金、事業スポンサー獲得のため、公益財団法人日本宇宙少年団の紹介パンフレットおよび会員獲得のための入団案内を新たに制作し、営業活動や各種イベントで役立てます。